

社団法人日本新体操連盟

平成17年度第2回総会議事録

1. 開催日時： 平成18年3月22日（水） 11時00分～11時45分

2. 開催場所： 東京都港区西麻布3-2-32 「麻布霞会館」

3. 出席理事

二木 英徳（会長）	朝倉 正昭（副会長）	高橋 明（副会長）
福本 隆（副会長）	荒井 隆（専務理事）	石崎 朔子（常務理事）
関田史保子（常務理事）	渡辺 守成（常務理事）	秋山エリカ（理事）
池田真喜子（理事）	岩本 晃（理事）	上村 郁子（理事）
岡 久留実（理事）	佐藤 昌子（理事）	崇島 慎一（理事）
谷原 誠（理事）	谷口 裕代（理事）	藤島八重子（理事）
橋本 千波（理事）	山崎 浩子（理事）	
田中 元（監事）	横田 章（監事）	

以上22名（うち委任状出席7名）

欠席理事 0名

出席社員 338名（うち委任状出席322名）

欠席社員 141名

その他出席者 0名

4. 決議事項：

- 1、平成18年度・事業計画について（定款・第29条関連事項）
- 2、平成18年度・収支予算について（定款・第29条関連事項）
- 3、その他

5. 議事の経過及び結果

- (1) (社)日本新体操連盟・定款第28条の定めにより議長を会長二木英徳が勤めた。
- (2) 議長は議事録署名人を荒井隆専務理事と関田史保子常務理事にする事を議場に諮り承認された。
- (3) 山崎浩子理事より総会出席者数委任状含めて338名であることが告げられ、議決定足数を満たしている事が報告された。
- (4) 議長は第1号議案「平成18年度・事業計画について」の説明者として渡辺守成常務理事を指名し、渡辺常務理事は下記内容の説明を行った。

1、2006年度のスケジュール・場所の説明を行った。

2、資料の訂正が出たことを報告し、以下のことを訂正した。

(1)「全日本新体操クラブ選手権」ジュニア選手年齢構成

12-14才[小学6年生(4-12月生)～中学3年生(1-3月生)で1992,1993,1994年生まれ]となっていたものを12-15才[小学6年生(4-12月生)～高校1年生(1-3月生)で1991,1992,1993,1994年生まれ]と訂正した。

15才(中学3年4-12月生まれ)の選手はシニア・ジュニア両区分に該当することとなるが、どちらかを選択して出場することとなった。

(2)「全日本新体操クラブ選手権」獲得出場権

「全日本新体操選手権」への獲得出場権をシニア個人総合上位12選手(15才以上のシニア選手)となっていたものを個人総合上位12選手(15才以上の選手)と訂正した。

(3)「全日本新体操クラブ団体選手権」チーム構成種目について

チーム構成ジュニアの部・割当種目「ロープ」シニア・ジュニア混成の部・選択種目「ロープ」と記載されていたものをチーム構成ジュニアの部・割当種目「ボール」シニア・ジュニア混成の部・選択種目「ボール」と訂正をした。

3、「全日本新体操クラブ選手権」「全日本新体操クラブ団体選手権」の座席指定制度について

平成17年度「チャイルド選手権」「日本新体操祭」で実施した座席指定制度で開場前の混雑、開場時の混乱・怪我、座席取り等今まで存在した苦情がなくなったため、18年度「クラブ選手権」「団体選手権」も有料座席指定制度を導入することとなった。販売方法については、皆様にご購入いただきやすいよう販売チャンネルを増やし対応していく。

4、「全日本新体操クラブ団体選手権」について

(財)日本体操協会にあわせてジュニア選手の年齢構成を「12-14才」を「小学5年-中学3年」に変更した。中学3年の4月から12月生まれの選手はシニア・ジュニア両区分に該当するため選択して出場することとなった。

「全日本選手権」出場権枠は(財)日本体操協会に申請した結果、18年度から1チーム増え、合計2チームとなった。

「混成チーム」には今まで順位を付けていなかったが、18年度より選択種目ごとに順位を付け、その順位で表彰することとなった。

5、「世界新体操クラブ選手権」「日本新体操祭」について

18年度の「世界新体操クラブ選手権」は三重県にて「ワールドカップファイナル」との同時開催のため、変則日程となった。したがって、その影響で「日本新体操祭」を18年度は休止することとした。なお次年度より再開つもりであることが説明された。

6、「全日本新体操チャイルド選手権」について

「3・4年生の部」において今まではエンターテイメント賞等を授与していたが、18年度より順位で表彰する。

「キッズコンテスト」ではアーティストック賞など事前に決まっていた賞を授与していたが、賞に当てはまらないが優秀な選手がいるため、18年度では競技終了後、審査員から優秀な選手に対して賞を与える方式に変更する。そのため事前に賞内容が決まらないことが説明された。

また、近年参加者増加のため現行制度での実施ができなくなってきた。そのため18年度は決勝を除く全競技同時進行で開催する。19年度以降は予選会を東日本、西日本で実施し、予選会を勝ち抜いた選手による決勝大会を全日本大会で行う東西予選会実施方式を採用していく方向性が示された。

7、「バッヂテスト」について

17年度より選手、指導者、審判の三者を同じ目的、目標の下育成、認定していく「三位一体制度によるバッヂテスト」の実施内容を説明した。選手は「テスト」のみ、指導者は「セミナー」「テスト」、審判は「研修」「セミナー」「テスト」によって認定し、現在連盟主催で実施している「指導者育成セミナー」はこの制度に組み込まれることが説明された。

8、「指導者育成セミナー」について

「指導者育成セミナー」は「バッヂテスト」に組み込まれるが例年通り実施されること、また、海外セミナーはスケジュールが先方と確認出来次第加盟者に連絡することが説明された。また、渡航先の相手国事情によりスケジュールを変更する場合があるので、その点を理解していただけるようお願いした。

9、質疑応答

[質 疑]「バッヂテスト」を受けないと「各種選手権大会」に出られないようになるのか？また、「その他の行事」の参加資格となっていくのか。

[回 答]18 年度では「各種選手権大会」及び「その他行事」の参加資格となることはない。ただし、将来的には「各種選手権大会」及び「その他行事」の資格となっていく方向性である。しかし、その実施時期については「バッヂテスト」の浸透が必要なので、十分浸透した後に実施していく。

以上の説明の後、「平成 18 年度・事業計画」は承認された。

(5) 議長は「第 2 号議案・平成 18 年度事業予算について」の説明者として荒井隆専務理事を指名し、荒井専務理事は下記内容の説明を行った。

1、「日本新体操祭」について

「日本新体操祭」は 18 年度休止のため、収支 0 円で計上されている。

2、「バッヂテスト」について

「バッヂテスト」は参加目標人数 300 人で 90 万円の収入見込み、しかし、初年度のため、教本、認定書等の作成経費支出 150 万円で 60 万円の赤字を計上してある。

3、「世界新体操クラブ選手権」について

17 年度は「ワールドカップファイナル」と同時開催で三重県との分配のため、収支が例年に比べて少なく計上している。

4、その他

その他の項目は前年実績とほぼ同額とし、次期繰越金を 16,511,773 円で 2006 年度収支予算を 203,974,933 円で計上した。

5、質疑応答

[質 疑]加盟登録費の支出が約 20 万円から 60 万円と上がっているがなぜか？

[回 答]登録をホームページ上でも行えるようシステム開発費を計上してある。

以上の説明の後、「平成 18 年度・収支予算」は承認された。

(6) その他について議長は議場に議案の提出を諮ったが提案がなかったため、議長は議場に諮り総会の終了を宣した。

この議事録が正確であることを証するため、議長ならびに議事録署名人は次に署名押印する。

平成 18 年 3 月 22 日

社団法人 日本新体操連盟 平成 17 年度第 2 回総会

議 長 二 木 英 徳

議事録署名人 荒 井 隆

同 関 田 史 保 子